

普及技術

分類名〔飼料作物〕

## 飼料用トウモロコシ奨励品種「タカネスター」

畜産試験場

### 1 取り上げた理由

飼料用トウモロコシは倒伏に強く、抗病性を兼ね備え、消化性が高く、高栄養の品種が生産現場から望まれている。畜産試験場において品種の検定試験を行った結果、成績優秀であった品種を奨励品種としたので普及技術とする。

### 2 普及技術

- 1) 当試験場におけるRM（出芽から黄熟期までの日数）は117日となった（育種場は113日）。早晩生は中生である。
- 2) 発芽の良否は良い（表1）。
- 3) 稈長は標準品種より長いものの、着雌穂高の稈長に対する割合は47.2%と標準品種53.7%より低く、耐倒伏性に優れる（表1）。
- 4) 耐病性は標準品種（セシリア）と比較してすす紋病、紋枯病、ごま葉枯れ病に強く、根腐病にも耐性がある（表2）。
- 5) 乾物収量は標準品種より優れる（表3、図1）。

### 3 利活用の留意点

- 1) 茎葉の消化性が優れ、10a当たりのTDN収量はセシリアより高い（表4）。
- 2) 栽植密度は10a当たり7,000本前後とする。

（問い合わせ先：畜産試験場 草地飼料部 電話0229-72-3101）

#### 4 背景となった主要な試験研究

##### 1) 研究課題名及び研究期間

飼料作物・牧草適応品種の選定 (1)飼料用トウモロコシ (昭和57年度～)

##### 2) 参考データ

播種月日：平成15年5月12日，平成16年5月12日，平成17年5月12日，平成20年5月8日  
畦間75cm×株間19cm

収穫月日：(タカネスター) 平成15年9月17日，平成16年9月9日，平成17年9月14日，平成20年9月11日  
(セシリア) 平成15年9月24日，平成16年9月9日，平成17年9月12日，平成20年9月11日

表1 生育特性(標準品種:パイオニア115日 セシリア) (H15-17,20の平均値)

品種名	発芽良否 (1-9)(注1)	初期生育 (1-9)(注1)	稈長 (cm)	着雌穂高 (cm)	倒伏割合 (%)	折損割合 (%)
タカネスター	8.3	5.6	269	127	0.2	4.4
セシリア(標準)	7.7	5.7	259	139	0.5	3.2

(注1)出芽の良否，初期生育は極良を9，中を5，極不良を1とする評点法。

表2 病害程度(標準品種:パイオニア115日 セシリア) (H15-17,20の平均値)

品種名	ごま葉枯病 (1-9)(注1)	すす紋病 (1-9)(注1)	黒穂病 (%)(注2)	根腐病 (%)(注2)	紋枯病 (%)(注2)
タカネスター	1.8	1.6	0.1	8.4	2.5
セシリア(標準)	2.8	2.0	0.0	12.6	4.0

(注1)被害程度と被害面積に応じて無を1，甚を9とする。(注2)罹病個体の全個体に対する割合。

表3 乾物収量

品種名	年	乾物収量/10a	乾物雌穂割合(%)
タカネスター	平成15年	1,545(136)	35.0
	平成16年	2,214(105)	50.4
	平成17年	2,266(121)	37.5
	平成20年	1,664( 96)	52.9
セシリア (標準品種)	平成15年	1,367(100)	48.6
	平成16年	1,471(100)	54.5
	平成17年	1,873(100)	45.5
	平成20年	1,738(100)	53.8

表4 TDN含量及びTDN収量の推定値

	茎葉TDN含量(%) ※1	ホールクロップTDN含量(%) ※1	TDN収量(kg/10a) ※2
タカネスター	48.9	66.8	1,261
セシリア	45.8	65.8	1,206

※1 長野県中信農業試験場畑作育種部試験値(平成13~16)

※2 関東・東山の7試験場16試験の平均値(平成13~16)

茎葉は近赤外分析値から，雌穂は子実重割合からの推定

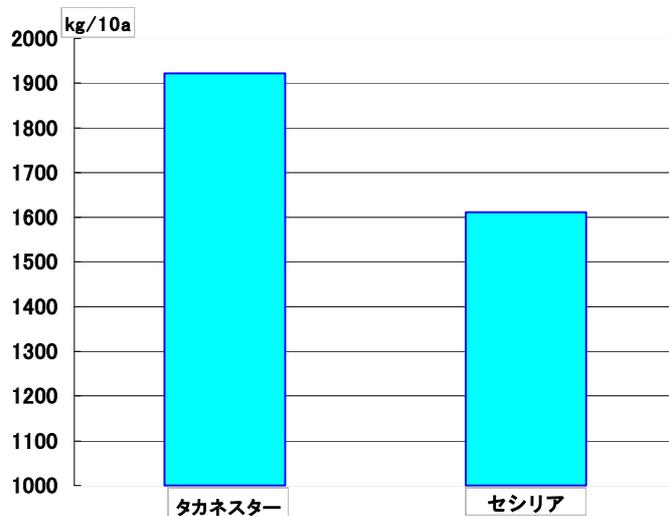


図1 乾物収量(H15~17,20の平均)

##### 3) 発表論文等 なし